



# 市之倉だより

多治見市立 市之倉小学校 令和6年12月号

507-0814 多治見市市之倉町10-381

TEL 0572-22-3702 ホームページ <http://school.city.tajimi.lg.jp/ichinokura/>

市内では、インフルエンザや溶連菌、マイコプラズマなどで欠席する児童生徒が増えているようです。市之倉の子たちは、それらに負けずに外で思いっきり遊んでいます。その後の手洗いうがいを確実にして健康維持をして、毎日笑顔を見せてくれることを願います。

児童と家庭、地域の皆さん、学校職員の笑顔があふれる市之倉小学校となることを願っています。

## ユニバーサルデザインの教育

校長

先日、視覚障害の方をお招きして「目の不自由な人の暮らし方」という表題で講演会をしていただきました。

その際に、家の中で生活を自力でしていく中で様々な工夫をしていることや、そのような人が使いやすいように配慮された「ユニバーサルデザイン」というものがあるという話がありました。

「ユニバーサルデザイン」とは、「どのような障害があろうと、一般市民と同等の生活と権利を保障されなければならない」という理念のもと実践されているもので、日本では例として高齢者や足の不自由な方に対して歩行の負担を減らしたり車いすが通りやすくしたりする「バリアフリー」という言葉がよく聞かれるかもしれません。

先日の講師の方は、例えば「大根などの白いものを切るときに、白いまな板だと切る物がよく見えないから、黒いまな板も用意して調理をしている」とか、「洗濯の時に洗剤を小さな容器のメモリに合わせて入れるのが大変な作業だったけれど、シャンプーのようなプッシュ式の容器にしたらこぼすことが減ったし、何よりもボール型の洗剤が販売されるようになってとても便利」というお話がありました。

そしてそれらのちょっとした工夫や知恵は、障害のある人のためだけの特別なものではなく、自分自身や周りの人の生活から不安を取り除き、安全で快適なものにするためにも大切なことだと教えていただきました。

市之倉小学校を振り返ってみると、「子どもたちが安心安全で快適に過ごせる」ために、次のような実践が「ユニバーサルデザイン」の教育につながっていると考えています。

### ●視覚的な刺激を軽減する

ごちゃごちゃと多くの掲示物を貼ることは、子供の学習の集中を妨げる負の刺激となってしまうこともあります。授業中、黒板に向かって集中しやすくするために、黒板の回りにはできるだけ掲示物は貼らず、貼っても必要最低限のシンプルなものにしています。

### ●聴覚的な配慮をする

音による刺激に苦痛を感じる子もいます。各自の椅子の足に消音材を付けたり、音を出さないように机や椅子を動かすマナー指導も行います。

### ●見通しの持てる環境をつくる

先の予測ができないことに強い不安を感じる子もいます。予定黒板を毎時間決まった時間に丁寧に書き換えたり、デジタルタイマーで活動の時間を明確に示したりしています。

### ●教室の整理整頓を心がける

どこに何を置けばいいかが固定していることも不安を取り除きます。毎日の提出物の位置や、机の位置を床にマジックで示すなど明確にしています。落とし物やごみが落ちていない、汚れがない環境をつくっています。

### ●学習スタイルを統一する

学年(担任)が変わるたびにスタイルが変容しては苦痛を感じる子もいます。授業中の話し方のルール、黒板の書き方を統一し、ICT機器を利用しすべての児童に資料などが手元ではっきり見えるなどしています。

講演会後の「身の周りの人にも親切にしたい」という児童代表の言葉がうれしかったです。